

ロシア語劇団コンツェルト

《投稿》

学生演劇×ロシア語演劇で55年目

平原 真宏 (東京外国語大学)

初めまして。私は東京外国語大学ロシア地域専攻に在籍し、ロシア語劇団コンツェルトにて第 54 回本公演の演出を担当しました平原真宏と申します。本公演は、2 月 7 日から 9 日まで上演され、今回も多く的好评を頂きながら幕を下ろしました。まずは公演に関わってくださった全ての皆様に多大なる感謝を述べさせていただきます。このような時世ではありつつも、皆様のご協力を賜り、長年続いている劇団の事績に、無事 54 の数字が加えられたことに安堵しております。

ロシア語劇団コンツェルト

私たちの劇団は、早稲田大学と東京外国語大学の学生を中心に 20 名ほどで活動している学生劇団であり、また基本的に全編をロシア語で上演する外国語劇団でもあります。1971 年、当時の教員の呼びかけによって集まった学生たちの「学芸会」として始まった団体でしたが、今では演劇劇団として、各大学の大学祭・語劇祭などとは完全に独立して活動しており、公演主催・準備・上演に至るすべての活動を独自で行っています。このような「学生外国語劇団」は私の知る限り、私たちが日本で唯一の団体です。公演は毎年 2 回、早稲田大学構内にて行っており、特に冬に開催している本公演には、一般のロシア語学習者やロシア語ネイティブの方もいらっしゃり、毎年 100 名以上の方にお越しいただいております。

以前は演出を外部の方に協力していただくこともあったのですが、近年は学生が演出を行っています。そのため演目などに各年の演出の特色が現れ、多彩なものとなっています。昨年度及び本年度はそれぞれ演出本人が戯曲を全訳し上演するなど、挑戦的な試みも行っています。前述のとおり、その他演劇に必要な準備も多くを団員が行っています。照明・音響・衣装・字幕・舞台設置・広報活動...、夏に行う小規模の新人公演ではその全てを団員が行い、冬の本公演では一部機材の関係上外注で行うこともあります。ほぼすべての仕事のノウハウを劇団内で共有して、連綿と続いてきた団体です。学生のロシア語上達の場合、ロシア語を学習する学生たちの交流の場合、また多様な色をもつロシア文学・演劇に触れる場合として続いており、本年度で 55 年度目を迎えます。皆様にも是非知っていただき、今後ともご注目いただければと思います。



第 54 回本公演『人間と情熱』(レールモントフ)の一場面

本公演戯曲について

先日上演した本公演の演目は、ミハイル・レールモントフの『人間と情熱』。昨年度上演のソログープ『賢い蜜蜂の贈り物』に続いて、本邦での上演は初めてとなる戯曲でした。この戯曲は、18 世紀前半の詩人であるレールモントフが、モスクワの寄宿学校在籍時代に、彼自身の周囲で起きた出来事をもとに書きあげた戯曲です。母方の祖母と父の対立、また血縁者との恋愛という苦悩に対する心の底からの叫びを、16 歳という青年期只中の彼が書き上げたものです。主人公であるユーリーは、レールモントフ自身をモデルとしており、母方の祖母と父が長年口論を重ね、自身は従妹に恋をしているという、まさに同じ設定のもとでストーリーが進行しています。作中に登場する幾つかのセリフには、当時彼が実際に見聞きした言葉も使われていると目されており、レールモントフを知る上でも重要な作品の 1 つと言われています。

また、レールモントフが寄宿学校在籍中に数多くの同時代の文学に触れていたことを示す資料ともなっています。この戯曲も、ドイツの詩人シラーの影響を受けた作品とされ、彼の処女戯曲『群盗』の構成に類似した点が多くみられます。今回演出を担当して感じたのは、戯曲執筆当時に連載されていたプーシキンの『エヴゲーニイ・オネーギン』の色も強く感じるということです。主人公、友人、ヒロインとその姉妹、

という人物構成、その性格やそれぞれの恋模様などにも興味深い類似性を感じました。

私自身は、一昨年レールモントフという“戯曲家”に出会って以降、彼の作品について調べてきました。しかし、邦訳されて一般に流通した戯曲は『仮面舞踏会』の 1 作のみであり、その試みは難航しました。日本語以外の情報に当たるのは翻訳の時間もかかるため、何かしら目的化して取り組みたいという願望がありました。そこで本公演の場を借りることで、私自身もレールモントフを知ることができ、また多くの方が新たなレールモントフの戯曲に触れることができると考えて、この作品を選びました。

翻訳の苦勞

翻訳には非常に苦勞しました。まず一つ目に、私が文学や翻訳を専攻している人間ではないことがあります。翻訳と言えば、専ら大学の講義で行う講読用の勉強しかしておらず、根本的なノウハウの欠如があった中での翻訳作業でした。

また作者が 200 年ほど前の詩人であるため、現代ロシア語とは違う表現や、地域性を表す音の訛りのある表現がいくつもあったこと、さらに詩的な韻を含む表現も多く、単純に直訳できない表現が少なくありませんでした。さらに、上演時に字幕化することを考慮した翻訳が必要なことも踏まえ、観客にとって難解にならない平易な表現を使いながら翻訳をすることは、本当に難易度の高いものでした。夏休みを使って翻訳しましたが、200 時間以上は費やしました。

そんな中でも、レールモントフの研究者の方に翻訳の添削指導をしていただき、私の至らない翻訳をなんとかお見せできる形まで仕上げることができました。それだけでなく、他の団員の力も借りながら翻訳を完成させられたことは、公演の稽古の中でも何度も感じさせられました。

上演後に私の翻訳について、いくつか好意的な反響をいただいたことは大変嬉しかったです。

4 か月の稽古の中で

2 月の本公演の稽古は 10 月から始まります。毎年 3 割以上の学生が入れ替わるため、役者個々人の演劇経験が少なく、今年の場合、半数以上は役者経験が 1 回しかなく、長時間の演劇は初めてという人が多かったです。経験の少ない役者たちの演技・身体操作のバリエーションをいかに数多く引き出すかというのが、毎年演出担当が直面する悩みです。今年も同じ課題に直面しました。私は高校演劇から通算 4 年間役者として舞台上に立っていたのですが、彼らのように「バリエーションがない」という時、どのように解決したのか記憶が少し朧気で、引き出し方の検討には本当に苦勞しました。演出経験のある先輩などの助言も受け、解決に向かって動いたのはいい思い出です。

もう一つの苦勞は、やはりそれぞれの学生生活との両立の問題です。台詞の暗記・自分の表現の検討など、演劇は稽古



練習と打ち合わせ

場以外、劇団活動外でも時間を割く必要があることが多く、同時にそれぞれが上演用の裏方作業を抱えていることもあり、団員には活動時間外にも数多くの負担があります。そんな中で、大学生活と劇団活動を両立することは団員各々が大変苦勞したと思います。

また、外国語劇団特有のことなのですが、日本語字幕でどれだけ情報を伝えることができるかということが大きな課題としてのしかかっています。実は人間の知覚の限界のために、字幕は一度に 28 字しか表示できません。その中で、観客の方々にとどのように伝えるか、切り捨てなければいけない情報を精査・取捨選択し、簡潔に反映する作業が必要になり



ます。日本語演劇では起こりえない、非常に重要な、難しい作業の 1 つです。字幕と演技の摺り合わせも必要です。台詞内でどこを、どのように強調するか、演技・発話の“間”に合わせた字幕の表示といった細かな工夫にもこだわって字幕制作を行っています。それだけ

でなく、今年はこの数年と比べて、意識的な表現を多用して字幕を作り、物語の進行から離れた細かな表現を字幕から外しました。観客にストーリーを確実に伝えることを重要視して字幕を制作したためです。こういった変更が柔軟に行われるのは、その仕事の担当者が頻繁に入れ替わる学生演劇ならではのことだと思います。

開催後のご報告

まずは、開催に際し多くの方からの差し入れやご支援を頂きましたこと、この場を借りて御礼を申し上げます。皆様からの多大なご支援によって、私たちの劇団は運営されているということを改めて実感すると共に、その期待に応えられるように団員一同、劇団活動に精進して参りたいと決意してお

ります。コロナ禍以降、劇団の運営にも大きな影が落ちていましたが、この2年でようやく復調の兆しを見せ、来年以降はその影響を振り払って歩める状態で、後輩たちに引き渡せることに嬉しく思っています。

公演後には多くの方から反響をいただきました。大変ありがたく思います。観劇後の皆様からの感想は、団員一同の大きな励みとなっています。観劇アンケートの一部をお守りとして写真で保存している団員もいるほどです。

私個人としても、アンケートだけでなく、ご覧になった方々の SNS 投稿などを拝見しました。今回の演劇のオペラ性に言及をされている方もいらっしゃいましたが、まさに主題としていた音楽をはじめ、演出にオペラの構造を参考にしているところもあります。演出担当の私が個人的に見に行くことが多く、同じ舞台芸術として取り入れてみようという試みでもありました。いかがでしたでしょうか。

多くの皆様のご意見・ご感想を反映して、来年度もさらに良い演劇を作り上げられるように努力して参ります。

感謝の辞

改めまして、この度のコンツェルトの本公演は団員の力だけでなく、オペレーションを行ってくださる外部の方、発音指導をしてくださる先生や留学生など大学関係者の方々、協賛だけでなくこのような寄稿の場を頂いたジェーアイシー旅行センター様をはじめとした協賛企業の皆様が助力をくださったことで初めて完成した演劇です。団員一同深く感謝しております。そして観劇にいらして下さった方々へも、私たちの公演を知り、早稲田までわざわざ足を運んでくださったこと、感謝の念が絶えません。

最後に、拙稿をお読みになってこの度の公演に興味を持たれた方、もう一度ご覧になりたいという方へ、劇団からお知らせがございます。現在公演の映像公開の準備を行っております。おそらくこの記事の公開頃には、劇団公式 YouTube にて動画が公開されているかと思えます。よろしければ是非ご覧ください。また、以前の公演もご覧になることができます。そちらもぜひご覧ください。

これを読んでロシア語劇団コンツェルトに興味を持った学生の方はぜひ稽古見学に来てください。一般の方は、次回本公演の観劇にいらっしゃることを楽しみにしております。

皆様に多大なご支援を頂きながらロシア語劇団コンツェルトの 54 年目が終わりました。来年からは OB となる身ではありますが、次の 1 年、さらに 5 年、10 年と多くの方から愛される劇団であることを願っております。

以下は、劇団公式サイト・SNS・YouTube のリンクです。フォローして新しい情報をお待ちください。

劇団公式サイト：<https://www.kontsert.jp/>

X (旧 Twitter)：<https://x.com/theatrekontsert>

Instagram：<https://www.instagram.com/theatrekontsert/>

YouTube：<https://www.youtube.com/@konntserutor>

《報告》JIC ロシア語サロン 春の伝統行事、冬のスポーツ… 毎回テーマを変えて十数回開催

JIC スタッフによる会話サロン「JIC ロシア語サロン」の活動についてご紹介します。

JIC ロシア語サロンはコロナ禍の 2021 年の 11 月に始めました。当初は JIC で輸入したロシア製シロップのスビテン (СБИТЕНЬ) をロシア語で紹介し、ロシア語学習者に試してもらおうというのが始まりでした。第一回目はスビテンとは何か、スビテンを使ったお菓子のレシピなどをロシア語で紹介しました。スビテンは、独特のハーブの香りがして、お茶やヨーグルトに入れるとロシアを感じる味になります。大変好評で数回購入して下さった方もいました。その後、最初の輸入在庫が売り切れて、さらに追加輸入しようとしたところでウクライナ戦争が始まり、制裁措置で輸入が困難になり、残念ながらスビテンは 1 回きりの輸入になってしまいました。

ロシアに対する風当たりは強くなりつつも、当時はまだコロナの影響で旅行に行けなくなり、人と会うのも憚られる時期だったので、オンライン上でロシア語を話してもらうことを目的にロシア語サロンを続けることにしました。現在も年に数回のペースで開催しています。講師は JIC のロシア人スタッフが担当し、レッスンは 1 回完結、毎回異なったテーマで会話のレッスンをします。参加者は JIC から送ったテキストを読み、事前にいくつかテーマに分けた質問をロシア語で答えられるように準備します。当日は講師が追加情報を話したり、受講生からの質問に答えたりしながら、話を膨らませます。参加定員は 10 人以上内としていますが、最近は常時 4~6 人の参加者で開催しています。

ロシア語サロンのテーマは様々で、時期に合わせて事務局で設定したり、参加者の方からのリクエストで決めたりしています。今までのテーマをご紹介します。

- 「Китайский квартал」観光地の一例で横浜の中華街についてロシア語で読み、日本とロシアの地理や観光について話しました。
- 「Новый год и Рождество」ロシアの新年とクリスマスの歴史についてのテキストを読み、日本との違いを比べました。
- 「Зимние Олимпийские игры」冬季北京オリンピックの時期に、冬のスポーツや知っているロシアのスポーツ選手について話しました。
- 「Московский Кремль」モスクワのクレムリンの歴史や建築について知識を深めました。

- 「Весенние народные праздники на Руси, дошедшие до наших дней」ロシアの伝統的な春の行事がテーマでした。「Масленица」「Вербное воскресенье」「Пасха」「Красная горка」など、皆様はご存じですか？
- 「Русские: а что они едят?」ロシアで収穫できるキノコの種類やキノコを使った料理のレシピを紹介しました。
- 「Грузия」コーカサスを背景にしたプーシキンやレールモントフの詩の一部を読みました。
- 「Народные приметы и суеверия」ロシアに古くから伝わる迷信と日本の迷信の話をしました。
- 「Общественный транспорт Москвы」モスクワの地下鉄について。新しい駅や車両を写真とともに紹介しました。
- 「Мёд」ロシアでは多くの種類の蜂蜜が売られています。どの花の蜂蜜が美味しいか想像しながらのレッスンでした。お土産選びの参考になるかもしれません。
- 「Труппа, которая продолжает очаровывать мир」サロン開催日がイーゴリ・モイセーエフ生誕 118 周年記念日だったので、モイセーエフ民族バレエ団について紹介しました。
- 「Дача как часть русской культуры」ダーチャは、ロシアの夏には欠かせないものです。ダーチャの始まりから現在のダーチャになるまでの歴史を、講師が紹介しました。
- 「Российские автомобили」ソビエト時代からあるロシアの自動車メーカーについて。ロシアとの付き合いが長い方には懐かしく感じる車がたくさんありました。

直近のロシア語サロンは 2025 年 2 月、テーマは「ロシアの教育制度」でした。講師は JIC モスクワスタッフのイーラさん。日本とロシアの教育制度の違いを説明し、自身の学生時代の話などをしました。参加者はロシア語を始めたきっかけや、好きだった科目や苦手な科目、クラブ活動のことなどを思い出しながら話しました。

参加者からロシアでは子供のメンタル面のサポートをどうしているかと質問がありました。日本では不登校率は検索すればすぐ出てきますし、テレビのニュースや新聞で見かけることがあり、大きな問題になっています。

イーラさんに調べてもらったところ、ロシアでは不登校率の統計はすぐには出てきません。特別取り上げられるほどのことではないからかもしれませんが、イーラさんが小学生の子どものいる友人に聞いたところでは、学校に行っていない子どもがいるということはないそうです。ロシアでは 15 歳までの 9 年間は義務教育であり、正当な理由がなく欠席を繰り返すことがあるというのは考えにくいのです。不登校の子供が全くいないわけではないと思いますが、モスクワに関しては言えば、ロシアの中でも教育水準が高く、様々な制度も整っているため、不登校が深刻化する前に対応できているのかもしれない。それでも何らかの理由や問題のある子どもには自宅でのオンライン学習などのサポートがあるそうです。

高等教育制度に関しても日本との違いがあり、変化してい

ます。ソビエト時代、大学は学士課程、修士課程ではなく、通常は 5 年制の専門家課程 (Специалитет) でした。2003 年ヨーロッパの高等教育の標準化を目指すボローニャ・プロセス加盟により、現在、ロシアは欧米や日本と同じ学士課程 4 年 (Бакалавриат) と修士課程 2 年 (Магистратура) の制度が設置されていますが、2022 年にボローニャ・プロセスからの脱退を発表し、来年 2026 年 9 月の入学から新しい制度が適用されることになりました。新しい制度は学士と専門家に相当する基礎高等教育 4~6 年 (Базовое высшее образование) と修士に相当する専門高等教育 1~3 年 (Специализированное высшее образование) になります。

今回のサロンでもイーラさんからモスクワの身近な様子や最近ロシアでニュースになったことなどを聞きながら、アットホームな雰囲気で開催しました。会話レベルは初中級~中級程度です。今まで参加していただいた方はロシア語学習歴が長い方が多く、ロシアとの縁の深い方も多くいらっしゃいました。レッスンでは参加者の皆さんがロシアに行った時の話、住んでいた時の話、好きな文学の話、ロシア料理の話など、いろいろな話題が出て、私たち JIC スタッフも楽しく聞かせていただいています。

今後いつかはモスクワで、オフラインのサロンを設定できる日が来れば良いなあと思っています。

(JIC・中林英子)

2025 年度 JIC ロシア語オンライン講座

<JIC ロシア語講座の特徴>

- ・先生はネイティブのロシア人 (入門以外)
- ・7 名までの少人数クラス
- ・文法、会話、語彙、表現力をバランスよく鍛えます。

4 月 15 日から開講 (前期 15 回/後期 15 回)

入門/火曜 19:00~20:30/やまがみ・ともこ
 初級①/金曜 19:00~20:30/西森・スヴェトラーナ
 初級②/金曜 19:00~21:00/O・ガリーナ
 中級①/水曜 19:00~20:30/O・ナタリア
 中級②/火曜 19:00~20:30/B・スヴェトラーナ
 中級③(文法・会話)/木曜 19:00~20:30/O・ナタリア
 中上級(会話・文法)/水曜 19:30~21:00/S・ポリーナ
 中上級(購読・文法)/木曜 19:30~21:00/西森・スヴェトラーナ
 入門・初級(会話)/火曜 10:00~11:30/やまがみ・ともこ

受講費用:前期 39000 円(15 回)、後期 39000 円(15 回)

始めて受講する人は入会金 5000 円。30 分間のレベルチェックでその人にあつたクラスを案内します。

→ 詳しくは JIC のホームページで!

<https://www.jic-web.co.jp/cgi-bin/study/russian/>

主催: 国際親善交流センター(JIC)/大阪日口協会

＜日ロ交流情報＞

大阪日ロ協会が定期総会 (3月15日) ウクライナ停戦交渉めぐり講演会



3月15日、大阪日ロ協会(藤本和貴夫理事長)の第46期定期総会と講演会が、大阪市内の会議室で行われました。大阪日ロ協会は、コロナ禍とウクライナ戦争で多くの日ロ交流団体の活動が停滞する中でも、オンライン講演会を開くなどひとときわ活発に活動を続けてきましたが、今回はトランプ大統領の再登場で急速に動き出したウクライナ戦争停戦交渉を取り上げ、国際政治学者の東郷和彦氏を講師にとってもタイムリーな講演会を行いました(本誌2頁に講演録掲載)。

日本・カザフ国際バレエ・フェスティバル(3月28日) アーティストホームヴィレッジが栃木で開催



「第1回国際フェスティバル」と銘打って、日本とカザフスタンのバレエ教室の子供たちが共同で参加するバレエ・フェスティバルが3月28日に栃木市で開催されました。カザフスタンから100名以上が来日し、日頃の練習成果を披露すると同時に、日本側からも地元の高校生による和太鼓演奏や着物の着付けパフォーマンスが行われるなど、充実した文化交流イベントでした。主催したのは、栃木県壬生町でカザフスタンとのバレエ交流を長年続けてきたアーティストホームヴィレッジ(AHV/浦山宏子社長)。「ダンスで世界が一つになる」を合言葉に、これからも第2回、第3回とフェスティバルを開催したいと浦山さんは意欲満々です。

ロシア語映画発掘上映会 上映会、講演会、ダネリア監督特集… 今年も快進撃が止まらない

エース・スクエア(守屋愛さん)が主催するロシア語映画発掘上映会は、今年も快進撃を続けています。12月28日「チャロディ〜魔法使いたち」(1982年、ソ連・オデッサ映画スタジオ)、1月12日「ユノナ号とアヴォシ号」(1983年、ソ連)、そして2月16日には13回目となる「二人のヒョードル」(1958年、ソ連)の上映会を開催。



さらに、ウクライナ戦争に反対し現在はロシア国外で活動している著名な映画評論家アントン・ドーリン氏の講演会(2月1日、東京大学本郷キャンパス)を企画し、Morc 阿佐ヶ谷の「ゲオルギー・ダネリア監督特集」(3月28日～4月10日、「不思議感星キン・ザ・ザ」など6作品を連続上映)にも協力するなど、次々とその活動範囲を広げています。

ロシア語映画発掘上映会の今後の予定は、エース・スクエアのホームページでご確認ください。

<https://sites.google.com/view/acesquare>

日ロ友好愛知の会が臨時総会(4月5日) 「あいちロシア協会」に名称変更

4月5日、日ロ友好愛知の会の臨時総会が名古屋市内で開かれました。同会はこれまで一般社団法人日ロ友好愛知の会として活動してきましたが、今回、「あいちロシア協会」に名称を変更し、併せて一般社団法人を廃し、任意団体として活動を継続することになりました。



総会后、「ロシア民謡はなぜ日本人の心に響くのか」と題して、安原雅之・愛知県立芸術大学副学長が講演。「ともしび」

「カチューシャ」「黒い瞳」など、戦後日本で親しまれ歌い継がれてきたロシア民謡の数々を紹介しながら、これらの歌がどのように生まれ、なぜ日本人に愛されてきたのか、わかりやすく解説されました。日本人のロシア民謡好きを証明するかのよう、参加者は 50 名を超え、大盛況の講演会となりました。

日ロ協会が観桜の宴 (4 月 7 日、鳩山会館) 創立 60 周年迎え、再起動を期す



4 月 7 日、東京文京区の鳩山会館にて、日本・ロシア協会の創立 60 周年記念「観桜の宴」が開催されました。高村正彦会長、西村康稔理事長をはじめ茨城、栃木、愛知など各地の日ロ協会の代表やゲスト約 60 名が参集。満開の桜を愛でると同時に、米トランプ政権の下で進み始めたウクライナ停戦協議の動きを受けて、日ロ関係を再び前に動かしていこうと、久しぶりに賑やかに歓談しました。

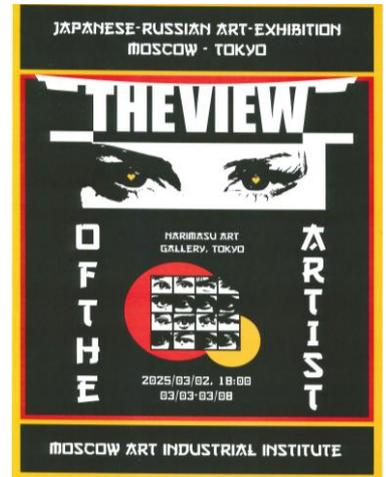
ゲストには上月豊久・前駐ロシア日本大使（現、千葉工業大学特別教授）や、相澤一郎・日ロ友好議員連盟会長らも参加し、それぞれ日ロ交流拡大の必要性を強調しました。挨拶に立った上月氏は、米露交渉がプーチン大統領のペースで進んでいることを指摘しつつ、「プーチンは、軍の動員力、ロシア経済の動向、戦争の被害などを含めて国民の反応を見ている。どこかでまとめるつもりなのだろうが、どのタイミングでそうなるか、交渉の進展を見守りたい」と話しました。

1965 年に前身となる日ソ親善協会が設立されて以来、日ロ協会は今年で 60 周年を迎えます。コロナ禍とウクライナ戦争の影響で、長らく「開店休業」状態にあった活動が、これを機に再度活性化することが期待されます。



モスクワ芸術工科大学の学生グループが来日 板橋区成増で「日露美術展」(3 月)

3 月 1 日から 9 日まで、モスクワ芸術工科大学 (MHPI) の学生・卒業生のグループ 40 名が来日し、板橋区成増のアートギャラリーで作品展を開催しました。展示されたのは学生たちが日本について調べて感じ取った日本イメージを作品に表現したもので、若いロシア人の感性が描くユニークな「日本」が並びました。引率者である同大学のシャフィコワ教授と親交のある彫刻家・指田竹房さんが日程をアレンジして、一行は都内や青梅市、奈良市などの美術館を巡り、併せて早春の日本観光を楽しみました。



美術展のポスター

また、3 月 3 日には東京新宿の文化学園大学を訪問、キャンパス見学をするとともに、今後の交流などについて話し合いました。今回の訪問は 22 年 10 月、24 年 3 月に次ぐ 3 回目で、シャフィコワ教授は「将来、もっと多くの日本の芸術大学と交流できるように、訪問を続けたい」と話していました。



3 月 3 日、新宿の文化学園大学を訪問した一行